



▲津波被害で停止している相馬火力発電所周辺



街は消えた。 でも、希望の春は来る

写真・文 蘭部英夫

4月8日、全障研救援本部は岩手・宮城・福島支部を訪問。前夜震度6強の余震のため仙台以北は通行止め。雪の山形方面から岩手・奥州市へ。翌9日、仙台から相馬に向かい南下すると、海側は田んぼの中に車、船と瓦礫がつづく。

福島県相馬市には、美しい松原と豊かな港があった。大津波は400名近い命と街をのみこんだ。そして、「レベル7」の事故が続いている福島第一原発は南にある。でも、ここにいる障害児たちには放課後デイが必要だからと加賀支部長夫妻は支えていた。長い闘いになる。でも全国は一つ。つながっている。



▲加賀全障研福島支部長ご夫妻。
大地震のあった時間、多くの子どもたちは帰宅せず学校にいたのが幸いした。でも、避難した校舎の3階で、その子らの目の前で、自分たちの家が流されていった



▲咲いていた菜の花



▲鈴木岩手支部長は4月4日～7日、釜石・大槌地区で出前屋台5千食にとりこんでいた



▲仙台市青葉



区なのはなホームで加々見宮城支部事務局長

障害者団体はひとまとまりとなって、 全力で支援活動にとりくんでいます



▲支援センター設置を打ち合わせる



▲みやぎ支援センターの
活動掲示板



▲他県ナンバーが総結集



大地震・大津波・原発事故の大災害のなかで、障害者は、避難所で必要な医療やサポートを受けることができない、また避難所に行くことさえできない人たちがいます。障害者団体は、JDF（日本障害者フォーラム）に結集し、宮城、福島に前線支援センターを設置し（岩手準備中）、各地から要員を派遣して、実態把握やニーズ調査、必要な政策提言にとりくんでいます。